

# 震災復興支援活動の記録

<p>住所 ※①欄の表は必ず させていただきます</p>	<p>(郵便局に入印)</p> <p>①市・郡・町 尾山町</p> <p>②区(市・町)</p> <p>③丁目・番地(号)</p> <p>④号</p>
<p>氏名 団体名</p>	<p>尾山町消費者協会</p>
<p>活動の内容 る 亦 期 間 場 所 具体的内容 うれしかったこと 思ったことなど</p>	<p>報紙 1枚を送ります。</p>
	<p>担当 大久保</p>

# 阪神大震災炊き出しボランティアの記録

尼崎消費者協会

平成7年1月17日、午前5時46分頃、予想もしなかった大震災が、兵庫県南部を襲い、その被害は絶大であった。六甲の山並み、青い海、阪神間に生まれ育った私達の誇れる国際文化都市神戸を一時にして崩壊廃墟と化した阪神淡路大震災発生以来、間もなく新しい年も近づきつつあります。地震以後あの悲惨な事象に遭遇した私達は、平凡に生活することがいかに大切で、有り難いかを痛感しました。

今回の災害について、都市生活基盤である「ラインライン」が全くの壊滅状態となり、私達の日常生活は大変な困難を極めました。私事で恐縮ですが、退院後の土人の菓が切れていたことをすっかり忘れていました。交通網の寸断の中で、尼崎から神戸労災病院行きは大変な仕事でした。

家が全壊となった一人住まいの友人の話です。遊びに来るうら孫との会話が、何時も地味のお話ばかりね、と言われたそうですが、自身も強烈な関東大震災体験者である父親より、上トにゆれる地帯ほど恐ろしい事はないと、よく聞かされていて、今回納得したと言いました。

被災し小自由な生活をされている方々の心や、体を暖めたいと思う気持ちが、日々増して強くなっていく。だが、私達が納得できる確かな情報が不足していました。折しも兵庫県民局から、「炊き出しボランティア」の話がありました。私共の協会員に、協力者を募りました。多くの参加申出に、うれしい悲鳴を上げながら、そのローテーションや、食事メニューを作成しました。

場所は芦屋市南部に位置する県立芦屋高等学校の校庭において、自衛隊（第10師団、群馬県駐屯部隊）との共同作業を1月末から約1か月間、夕食作りになぞさわってきました。同じ班の伊丹市コロンクラブ等の方々とも和やかな雰囲気で作業を行いました。寸断された各交通機関の復旧作業が、急ピッチで行われていました。当時の交通状況は、次のように記憶している。

JR 大阪 —— 住吉  
阪神 梅田 —— 青木  
阪急 梅田 —— 西宮北口

昼食をすませて、バスで立花へ出て、JRや阪神を利用しました。2時過ぎに集合場所へ着き、すぐに作業を開始する。6時の夕食作りには、この時間符が1段良かった。

初めて見る自衛隊の炊事車には、すぐれた厨房設備があり、強力な火力コンロ、大鍋、調理器具類の調達も協力していただきました。食材はまず猪名川農協より2トリアで高級の野菜が届きました。続いて尼崎市、神戸市各中央卸売市場、三田他県下の農協からも新鮮な野菜が豊富に運び込まれました。野菜の入荷状況を見ながら献立を作るのも次第に楽しみの際となりました。寒い寒い時季でした。小雪もチラチラ、余震も何回かありました。炊きさらしの校庭で大量の野菜洗いや、料理の後始末の冷たい水仕事も隊員さんに協力をしていただきました。その行動は炊事班だけに手慣れたもので、ただ感心するばかりです。とても有り難いと思いました。

今年3月、芦屋市在住の医師の炊き出し「メニュー」調査では、トップは「豚汁」であったそうです。さて初日のメニューは、偶然にも「豚汁」でした。1200人の分量はとても計算出来ませんので、あったけの野菜をたっぷりを使い無我夢中で作りました。避難者の方々から、おいしかったよ！おかわりありますか？

尼崎消費者協会

と喜んで下さいましたが、嬉しかったのはむしろ私達でした。歓迎しない発泡スチロール容器ですが、今回は皮内にもこれが大活躍でした。避難者の方々も、この容器やお箸は勿体ないので、何回も使用しますと言われた事に、私達の消費者運動は、息長く続けていくべきものと確信しました。

2日目は、とても冷え込んで寒い日でした。メニューを「カス汁」にして良かったと思いました。灘、西宮等酒造地周辺に住む私達は、馴染みのある料理ですが、関東地方の隊員さんは、珍しいようでした。ボールに酒カスを手で小さくちぎって、タシ汁で味噌と共にといていく。貝でいっぱいになった2つの大鍋にといた酒カスを入れていく。家庭で作る小人数のものではないので、味は人愛おしく出来上がりましたが、作るのに手間がかかりました。

毎日作るメニューに避難者の皆さんが、少しずつ変化して明るい表情が見られるようになりました。それは私達の、何よりの励みでもありました。心の中でホットしたような、暗がりの中、緩んで来る自分の顔、仲間の顔、明日もかんばろうと胸にジーンとあついものがこみあげて止まりませんでした。

震災後、全国から何万人もの「ボランティア」が活動しました。そうなんです、自然に、気負わないで、誰にでも出来るのです。この貴重な経験と高まった「ボランティア」意識を復興に向けて、いろんな場へも持続して行きたい。今回の災害では、昭和40年の石油パニック的な事柄が発生しなかった事は、とても幸でした。死者5千5百余人のご冥福を心よりお祈りいたします。

避難所生活をされていた方、そのお世話をされていた学校の先生、行政の方、学生ボランティア、炊き出しに参加をした我々の仲間や、多くの方々に感謝を申し上げます。私のような者にも出番を与えて頂いたんですもの。

阪神大震災後半年を機会に、炊き出しボランティアに参加した会員の方々

に集まっていたとき、当時の活動記録を綴ることになりました。



〔参加した動機〕

- ・被災し助けていただいて嬉しかったので、誰かにお返しをしたかった。
- ・いても立ってもいられなかった。
- ・私でも何か役立つ事があればいいと思った。
- ・大震災の中、不自由な避難所生活者の事を思い、ボランティア参加を申し出た。
- ・ボランティアに参加しないか、と誘われて快く参加した。



〔思い出すままに〕

- ・いい経験させて頂いた。
- ・極限状態の中で「自分さえよければいい」という考えの人が少なく感心した。
- ・被災者の中には、自分たちで立ち上がろうという精神力の強い人が大勢いた。
- ・正道なところ気が鈍い余震が続く中、夜道で夕方からの食事作りは非常に寒くつらかった。しかし、喜んで食べて下さる姿を見て寒さを忘れた。
- ・いろいろな人の心の強さを肌で感じた。
- ・災害時には、また声をかけて欲しい。
- ・この体験とこの出会いを大切にしたい。
- ・被災者の中に資源を大切にずる人が多く感心した。例えばポリ容器やお箸を繰り返し使っておられた。
- ・心暖まる炊き出しを受け忘れられないといわれ嬉しかった。
- ・生きる希望を与えられたといわれた笑顔が忘れられない。



〔今後のボランティア活動への意見〕

- ・安全面から、余震の危険を逐じつつ不自由な交通機関を片道2時間あまりもかけ所へ夕食作りに行き、明かりのない夜道を知るのは、少々不安があった。
- ・尼崎市にも被災者が多く避難していたのになぜ遠い芦屋市へ炊き出しに行くのかた。(兵庫県で芦屋市が最も被災が大きかったという情報だった)
- ・避難所以外での被災者への配給ができればもっとよかった。(1人暮らしの人等)
- ・ボランティアコーディネーターがいないと何をしていたのか知らない。
- ・行政が素早い情報収集をして、ボランティアコントロールをしてもらえたら良かったのではないか。
- ・県や市のボランティア活動はあったのか。
- ・学生の中には、ボランティアという言葉に憧れ、英志動のてきない人が自立した。思われた。
- ・子供の頃からボランティア活動の経験がすべきたと思った。
- ・身体障害者向けボランティアの必要性を強く感じた。



〔自衛隊の救援活動を見て〕

- ・慣例参加に絶対反対するが、災害救援活動は是非してほしい。自衛隊の活動がもう少し早ければ助かった人も多かったと思う。
- ・自衛隊員はテキパキとよく活動していて見ていて気持ちがよかった。
- ・自衛隊を見直した。

市民同訓会事務局から参加者に対し、難しい状況下の中、自ら被災者でありながら、ボランティアとして協力を惜しまなかったことへのお礼の言葉をいただきました

阪神大塚児童救急出しボランチャア

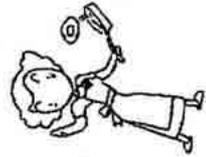
メニュー表

尼崎消費者協会

月日	メニュー	献 呈	行先	人数	月日	メニュー	献 呈	行先	人数
1/23	餅汁	豚肉・大豆・人参・水菜・ネギ・卵・ごま・しょうが・昆布・わかめ	A	1200	6	かき揚げ	ほうれん草・卵(200)・豆腐・豚肉・人参(調味料)	A	1200
20	カス汁	大豆・人参・コンニャク・うす揚げ・ネギ・昆布・わかめ・調味料	A	1200	7	焼うどん	白米・鶏肉・かたく揚げ・人参・冷凍うどん・ボール(200)・調味料	A	1200
20	八宝菜	豚肉・人参・五ネギ・白米・三皮豆・生椎茸・かたく揚げ・調味料	A	1200	8	カレー汁	五ネギ・じゃが芋・豚肉・人参・調味料	A	1200
31	豆腐煮	豚肉・大豆・コンニャク・竹筴・揚げ・鶏卵・しょうが	A	1200	8	ビーフシチュー	牛肉・五ネギ・人参・ブロッコリー・コンソメ・シチュールー・調味料	B	600
2/1	けんちん汁	豆腐・ほうろこ・コンニャク・しょうが・人参・大豆・ネギ・豚肉・水菜・調味料	A	1200	9	餅汁	豚肉・大豆・人参・水菜・ネギ・卵・ごま・しょうが・調味料	A	1200
2	肉じゃが	牛肉・しょうが・人参・五ネギ・かぼちゃ・大根・調味料	A	1200	10	肉じゃが	牛肉・しょうが・人参・五ネギ・コンニャク・白米・調味料	A	1200
3	真の多い味噌汁	豚肉・大豆・うす揚げ・白米・水菜・人参・ネギ・キャベツ・調味料	A	1200	11	カス汁	大豆・人参・コンニャク・うす揚げ・ネギ・昆布・わかめ・調味料	A	800
4	カス汁	大豆・人参・コンニャク・うす揚げ・ネギ・昆布・わかめ・調味料	A	1200	12	餅汁	豚肉・大豆・人参・水菜・ネギ・卵・ごま・しょうが・調味料	A	800
5	クリームシチュー	豚肉・五ネギ・人参・しょうが・ブロッコリー・調味料	A	1200	13	八宝菜	豚肉・人参・五ネギ・白米・三皮豆・生椎茸・かたく揚げ・調味料	A	870

月日	メニュー	献 呈	行先	人数
13	かき揚げ	ほうれん草・卵(200)・とうもろこし・豚肉・人参・調味料	C	120
14	ずし焼き・オクラ・オクラ・かつお	牛肉・コンニャク・ネギ・白米・とうもろこし・水菜・五ネギ・トマト・かつお・調味料	C	800
14	かき揚げ	しょうが・大豆・白米・とうもろこし・豚肉・キャベツ・コンニャク・調味料	C	120
15	中田焼うどん	豚肉・トマト・ボール・人参・水菜・白米・かたく揚げ・調味料	C	120
16	カレー汁	いんげん豆・しょうが・五ネギ・豚肉・人参・かたく揚げ・調味料	C	120
17	クリームシチュー	豚肉・五ネギ・人参・しょうが・ブロッコリー・調味料	C	120

行先 A: 兵庫県立芦屋高等学校  
B: 尼崎市立長瀬北小学校  
C: 尼崎市立西園田北小学校



尼崎消費者協会

## 炊き出し

### ボランティアに参加

1月17日全く予想もしなかった大震災が、兵庫県南部を襲い、その被害は絶大なものでした。当協会員の中にも亡くなられた方や、家屋全壊など被害を受けられた方々もあり、お慰めの言葉もありません。

この震災に当たり、県民局からお話があり炊き出しボランティアに参加しました。協会だより前号でボランティア協力者の募集を呼びかけましたところ、多数の申し出がありました。

行き先は、県立芦屋高校、武庫北小学校、園田東中学校。23日間延べ人数100余人の参加がありました。

いずれも夕食の準備で、雪の舞う運動場や冷たい風の吹く校舎の渡り廊下など厳しい条件の作業でしたが、参加者全員、ほんとうの意味のボランティア活動に邁進して下さいました。ありがとうございました。

いうまでもなく、被災地の状況は目を覆うものがありました。今も尚、生活の場を避難所や運動場などテントを張って暮らしておられる方が多数おられます。1日も早く元の生活に戻られることを心からお祈りするばかりです。

このボランティア活動の中で、人々の心や行動を見て教えられることが沢山ありました。悲しい事に会っても、強く生きていかれる方々へ、尊敬の意を表したいと思います。

※ 2月27日 兵庫ジャーナル社発行の560号に震災地に於いて、当協会の炊き出し内容が掲載されました。

## 尼崎消費者協会

# 震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開 させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(①市・郡・町)	尾崎市
	(②区・町・字)	
	(③丁目・番地等)	
	(④TEL)	

氏名 団体名	混声合唱フロイデズ
-----------	-----------

活動の内容 (名称) (期間) (場所) 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	<p>阪神淡路大震災復興支援 やすぎのコンサート (クラシック音楽を管弦楽と混声合唱による) を9回重ねて来た。2005.5に10回目のコンサートを「苦難を乗り越え喜びに！」にちなんで「ベートーヴェン第九」を予定しています。</p> <p>(1998.1.17「震災3周年復興を願う第九」アルカイクホール 1999.1「尾崎フロイデ合唱団」名を広く被災地で活動目的に「混声合唱フロイデ」 1999.7 モーツァルト「戴冠シ曲」を第2回被災復興コンサートで上演 いちみホール 2000.1 震災5周年復興支援第九コンサート アルカイクホール 2000.7 震災復興やすぎのコンサート第4弾「ワグネル「グローリア」」いちみホール 2001.1 第5弾 21世紀プログラム第九コンサート アルカイクホール 2001.7 震災復興第6回やすぎのコンサート「シューベart/ドイツシ曲」いちみホール 2002.7 〃 第7回やすぎのコンサート「モーツァルト/レクイエム」アルカイクホール 2003.7 〃 第8回やすぎのコンサート「ベートーヴェン/シ曲ハ長調」いちみホール 2004.5 〃 第9回やすぎのコンサート「ブラームス/4重奏曲 モーツァルト/シ曲ハ長調」いちみホール</p> <p>いづれも震災ボランティア(コープ23バ、AMDA兵庫等)との協賛を得コンサート会場で活動報告パネル展や活動支援グッズ販売などを行ってもらう機会に理解を得た。復興ボランティアは時を追う毎に内容が変化して行くを知った(コープ23バは生活支援→老人介護等へ、AMDA兵庫は急救医療からネパール子供病院建設へと)。教会は日常支援へと変る。)また、毎回のコンサートでは被災者の多くの様を見ました。人々の希望の姿を感化</p>
---	---

12/25 改称

いせない  
ためのコンサートを続け  
ていきたい。

# 震災復興支援活動の記録

<p>住所</p> <p>※①市町名は公開 させていただきます</p>	〒	(事務局記入欄)
<p>氏名 団体名</p>	在宅福祉支援グループ・コスモス理事長 清水 志津子	
<p>活動の内容</p> <p>名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど</p>	<p>名称：在宅福祉支援グループ・コスモス（尼崎市金楽寺町 2-11-18） 金楽寺老人給食グループ(尼崎市金楽寺町 2-5-32)</p> <p>震災の年の2月5日、町内会の役員や地元の人たちが中心となって、空き地にプレハブ小屋を建て、「住宅復旧ボランティアセンター」を開設。住宅の補修、修理のために全国から約400名ものボランティアが集まり寝食を共にする。対象家屋は延べ約1600件。地元のご婦人たちが、被災者やボランティアの食事を作るためにセンター活動に参加。</p> <p>その経験を生かし、2年後の97年、仮設住宅に住む独居のお年寄りや、地元の高齢者を支援しようと、地元の会館を食堂として借り週2回1食200円デ昼食の提供を始めた。炊き出しの経験が生かされた。</p> <p>今では1日約80人が毎日、約140人が週1回利用する。00年7月には24時間ケアつきのグループハウス「やすらぎ荘」を開設し、その後介護事業分野に活動を広げる。給食サービスも含め約80名のスタッフがいる。</p>	

# 震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開 させていただきます す	〒	(事務局記入欄)
	(①市・郡・町)	尾崎市
	(②区・町・字)	
	(③丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏名 団体名	スタジオ K	
活動の内容 (名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど)	1995年1月～2月まで・震災直後、YIPPIE(代表)は、神戸、三宮の震災で、Yがてした 人の為の仮設診療所にて、Yがてした外国人の方と医療 看護婦との通訳をしてみたり。 ・大阪から、Yがてしたガスマシンを大量に購入し、芦屋市へ届けたり。 ・スタジオKの救援物資として、衣類、毛布、水コビを芦屋 市民センター及び東灘の避難所に届けたり。 ・芦屋市民センターの避難所へ掛け時計を寄付する。 ・震災にて倒壊したスタジオKの家族をスタジオKにて 宿泊してもらう。	
	1995年11月3日・豊中市民会館にて、スタジオKのコンサート「being」を 開催。全収益金を芦屋市に寄付。 旧・北村春江 芦屋市長に寄付金を手渡す。	
	1997年7月19、20日・芦屋市ホール 修復・復興の稀露として、YIPPIE タスカの公演「孤独-Honophobia」、スタジオKのライブ マシ「感動の瞬間」を開催。 収益金を芦屋市文化振興財団へ寄付する。	

# 震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開 させていただきます	〒	(事務局記入欄)
	(①市・郡・町)	尼崎市
	(②区・町・字)	
	(②丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏名 団体名	特定非営利活動法人ヘルスサポート研究所 本田 悦子	
活動の内容 名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	<p>震災直後から西宮市立平木中学校で、カウンセリングサービスを開始した。その後、西宮市名塩の仮設住宅に活動の場を移した。名塩では、月に1・2回程度、民生委員さんや仮設住宅自治会の人達と連携をとって個別カウンセリングや健康支援を実施した。</p> <p>そうした中で、他団体と共催でアメリカからボランティア画家を招き、名塩仮設住宅で絵画会を開催した。その時に地域の人達と共に製作した絵画を、地元小学校等に贈呈した。そうした活動を名塩仮設住宅が閉鎖されるまで継続し、最終的に仮設自治会の記録として、写真集を残した。こころに残ることとして、名塩の山の上で最初に訪問した方が応答なく、後でその時すでに部屋で亡くなっていたことを知ったこと。そして、困難な中でより良い活動を目指し実践された自治会の皆さん、地元の皆さん、民生委員の方々に出会えたことが大きな喜びになっている。</p> <p>また、必要な時に必要な人に出会えたことの不思議さも感じる。自分が地元のボランティアとして働く時、自分自身を外部から助力してくれる人があることで、力づけられた。このことから、外部から直接的であるよりは、地元のボランティアを支える間接的な援助が、地域を力づけることだと学んだ。ボランティアを支えるボランティア活動を体験した。</p>	

# 震災復興支援活動の記録

<p>住所</p> <p>※①市町名は公開させていただきます</p>	<p>〒</p> <p>(①市・郡・町) 尾崎市</p> <p>(②区・町・字)</p> <p>(③丁目・番地等)</p> <p>(④TEL)</p>	<p>(事務局記入欄)</p>
<p>氏名 団体名</p>	<p>伯朱会 (喜多<sup>(伯朱)</sup>博子)</p>	
<p>活動の内容 名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど</p>	<p>「尾崎近松カルタの作成」</p> <p>平成6年秋から平成7年2月締切りで市内45小学校6年生から「文言」を募集折は1月17日の地震。ダメだと諦めていた折 3,700首もの文言が集り</p> <p><u>私共罹災者をよく力づけてくれたことは生涯忘れ得ぬ感激でした。</u></p> <p>伯朱会で絵札を作成、平成8年9月A4の大ききでカルタを作り、45小学校へ寄贈いたしました。</p>	